

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	6 月	27 日	記入者	久門たつお
調査者名	大谷	垣内	久門	鶴田	

文化財名	畠田(はたけだ)古墳				
種類	<input checked="" type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ( )
指定年月日	2007年(平成19)3月30日				
所在地	北葛城郡王寺町明神4丁目18の8				
所有者 管理者	王寺町				
員数	1基				
時代区分	古墳時代終末期の7世紀初頭				
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)	
案内板の状況	有り。詳細な説明が記載されているが、板面の汚れで文字がやや読み辛い。				
公開	見学自由				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input checked="" type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足 ( )				
当面の課題	説明板の汚れが目につくので、清掃していただければ。				
今後の課題	特になし。				
その他 (由緒など)	明神山東南の丘陵地の南斜面に古墳時代終末期の7世紀初頭に築造された直径15 <sup>㍍</sup> 、高さ約4 <sup>㍍</sup> の円墳。長さ5.9 <sup>㍍</sup> の両袖式の横穴式石室は南側に開口している。かつて木棺を納めた玄室は長さ3.2 <sup>㍍</sup> 、幅2.0 <sup>㍍</sup> 、高さ2.3 <sup>㍍</sup> で、2体以上を安置したとみられる木棺には、金環、金銅製刀装具なども副葬されていた。この地域は7世紀に大規模に開発されたとされ、被葬者は開発に関わった有力者ではないかとみられている。				
コメント	古墳は明神4丁目の住宅街の南端に隣接しているものの傾斜地の下部にあり、住宅街の舗装道路から分岐した脇道(地道)を西に約150 <sup>㍍</sup> 進むとたどり着ける。分岐の道路沿いに案内看板が設けられているが、小さく目に付きにくいので、もう少し目立つよう工夫していただきたい。車での来訪者には分りやすい場所に設置してほしい。 古墳の保存状態は良いとみられ、この地域の歴史を考える上で重要な史跡。考古学ファンなど多くの人たちに見学してもらうためにも末永く保存していただきたい。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2020年	6月	27日	記入者	久門たつお
調査者名	大谷	垣内	久門	鶴田	

文化財名	畠田(はたけだ)古墳
------	------------

山麓にある畠田古墳。直径15mの円墳



両袖式の横穴式石室は南側に開口し全長5.9m



かつて木棺を納めた玄室。金環などの副葬品も



玄室の西面の積み石に後世に彫られた神像か



古墳北側から望む。古墳の周りには排水溝も



古墳南側に設置されている説明板

